

論考

特集 3・1 独立運動の多元的可能性

大会シンポジウム特集に寄せて

外村大

朝鮮民主主義人民共和国における 3.1 運動史研究について

康成銀

三一運動期の植民地権力と朝鮮民衆

—地域における「対峙」の様相を考える—

水野直樹

解放直後における在日朝鮮人の 3.1 運動記念日闘争

—8.15 解放記念日との比較検討

裴始美

龍井 3・13 独立運動における朝・漢両民族関係を考える

飯倉江里衣

投稿論文

朝鮮民主主義人民共和国における産業美術の歴史の変遷 (1948-2019)

—工業美術の軽工業・重工業製品の形態図案の発展史—

劉賢国

研究ノート

戦後在日朝鮮人の歴史実践と展示の可能性

—辛基秀と「青丘文化ホール」の活動を手掛かりに—

山口祐香

徴用工問題をめぐる日韓の葛藤

—徴用工問題への日韓の対応を中心に—

朴一

キルチャピ

第 14 回コリア学国際学術討論会に参加して

徐正根

植民地歌謡史の一断面

—新民謡『朝鮮八景歌』を中心に—

任正憐

書評

朴一 『20 世紀東アジアのポリティカルエコノミー』

柳学洙

閔智焄 『韓国政府の在日コリアン政策：包摂と排除のはざままで』

金雄基

森類臣 『韓国ジャーナリズムと言論民主化運動：『ハンギョレ新聞』をめぐる歴史社会学』

玄武岩

磯崎敦仁 『北朝鮮と観光』

森類臣

論考

特集 3・1 独立運動の多面的可能性

大会シンポジウム特集に寄せて	外村大	1
朝鮮民主主義人民共和国における 3.1 運動史研究について	康成銀	3
三一運動期の植民地権力と朝鮮民衆 —地域における「対峙」の様相を考える—	水野直樹	11
解放直後における在日朝鮮人の 3.1 運動記念日闘争 —8.15 解放記念日との比較検討—	裴始美	22
龍井 3・13 独立運動における朝・漢両民族関係を考える	飯倉江里衣	35

投稿論文

朝鮮民主主義人民共和国における産業美術の歴史的変遷 (1948-2019) —工業美術の軽工業・重工業製品の形態図案の発展史—	劉賢国	47
--	-----	----

研究ノート

戦後在日朝鮮人の歴史実践と展示の可能性 —辛基秀と「青丘文化ホール」の活動を手掛かりに—	山口祐香	68
徴用工問題をめぐる日韓の葛藤 —徴用工問題への日韓の対応を中心に—	朴一	81

キルチャピ

第 14 回コリア学国際学術討論会に参加して	徐正根	93
植民地歌謡史の一断面 —新民謡『朝鮮八景歌』を中心に—	任正嫻	95

書評

朴一『20 世紀東アジアのポリティカルエコノミー』	柳学洙	101
閔智焄『韓国政府の在日コリアン政策：包摂と排除のはざままで』	金雄基	105
森類臣『韓国ジャーナリズムと言論民主化運動：『ハンギョレ新聞』をめぐる歴史社会学』	玄武岩	108
儀崎敦仁『北朝鮮と観光』	森類臣	111

学会報告

国際高麗学会日本支部 第 23 回 (2019 年度) 学術大会 報告		116
2019 年度学会活動		118
投稿規定・執筆規定		121
編集後記		124

国際高麗学会日本支部

2019 年度

学会活動

●国際高麗学会日本支部 第 23 回学術大会

日 時：2019 年 6 月 8 日（土）10：00～17：00（受付：9：30～）

場 所：東京大学駒場キャンパス 18 号館

【午前の部】10:00～11:00

◎自由論題報告Ⅰ コラボレーションルーム 1

1. 劉賢国（筑波技術大学）「三・一独立運動後、中国内の上海版『独立新聞』創刊と朝鮮語活字開発そして、その意味」
2. 山口祐香（九州大学大学院）「『朝鮮通信使』の再発見－在日朝鮮人知識人たちの歴史実践を通じて－」

◎自由論題報告Ⅱ コラボレーションルーム 4

1. 白凜（東京大学大学院）「戦後日本の在日朝鮮人美術－解放から 1960 年まで」
2. 梁仁實（岩手大学）「映画監督・李学仁の映画観」

◎第 12 回 理事会 11:00～12:00 オープンスペース

◎第 22 回 総会 12:15～12:45 ホール

【午後の部】13:00～17:00 ホール

シンポジウム「3・1 独立運動の多元的可能性」

〔特別報告〕

「朝鮮民主主義人民共和国における 3・1 運動史研究について」康成銀（朝鮮大学校）

〔報 告〕

「3・1 運動期の植民地権力と朝鮮民衆－地域における「対峙」の様相を考える－」水野直樹（京都大学）

「解放直後、在日朝鮮人による 3・1 運動継承」ベヨンミ（大谷大学）

「中国東北の龍井における 3・13 独立運動の展開とその記憶の継承」飯倉江里衣（東京外国語大学）

〔ディスカッション〕
モデレーター：外村大（東京大学）

◎懇親会 17:30～19:30 オープンスペース

●人文社会研究部会

第 96 回人文社会研究部会

日 時：2019 年 12 月 21 日（土）15：00～

会 場：大阪教育大学大天王寺キャンパス 中央館 4 階 416 室

報 告：合評会

対象本：森 類臣『韓国ジャーナリズムと言論民主化運動 『ハンギョレ新聞をめぐる歴史社会学』』
日本経済評論社、2019 年。

自著解説：森類臣（立命館大学）

コメント：川瀬俊治（ジャーナリスト）

波佐場清（元『朝日新聞』ソウル支局長・編集委員）

第 97 回人文社会研究部会 特別研究会

国際高麗学会日本支部創立 30 周年を迎えて - 記念座談会 学会の歩みとこれからの 10 年 -

日 時：2020 年 2 月 15 日（土）15 時～

会 場：立命館 OIC キャンパス B 棟 5 階 515・516

登壇者：滝沢秀樹（日本支部 元会長、本部 元会長、甲南大学）

宋南先（本部 現会長、本部 元事務総長、大阪経済法科大学）

文京洙（日本支部 元会長、立命館大学）

朴 一（日本支部 元会長、大阪市立大学）

鄭雅英（日本支部 現会長、立命館大学）

司 会：裴光雄（日本支部 副会長、本部 現事務総長、大阪教育大学）

●科学技術研究部会

第 69 回科学技術研究部会

日 時：2019 年 5 月 25 日（土）15：45～

会 場：グランフロント大阪北館 1F

報告者：鄭洸賢（筑波大学大学院システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻博士前期課程
（当時）、東レエンジニアリング株式会社（現在））

報 告：「縦列実走行条件下の自動車モデルに作用する流体抗力」

第 71 回科学技術研究部会

日 時：2019 年 10 月 13 日（日）15：50～

会 場：グランフロント大阪北館 1F タワー C オフィスエントランス前に集合

発表者：趙崇貴（奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士課程）

報 告：「皮膚形状計測に基づく上肢の動作推定」

●合同研究会

第 70 回科学技術研究部会・第 95 回人文社会研究部会

日 時：2019 年 6 月 1 日（土）15 時～

会 場：京都大学 吉田キャンパス 法経東館地下 1 階 みずほホール

報告者：キム・ビョンヨン氏（ソウル国立大学経済学部教授）

報 告：「北朝鮮経済の現況と展望」

●その他

国際高麗学会、北東アジア学会 合同研究会

日 付：2019 年 4 月 20 日（土）13：30～17：00

場 所：大阪教育大学天王寺キャンパス 中央館 2 階 215 教室

<プログラム>

合同研究会の意義説明 裴光雄（大阪教育大学）

[第 1 報告] 司会：松野周治（立命館大学）

報告者：大西広（慶應大学）「北東アジアにおける米国覇権の終焉と日韓関係」

コメンテーター：勝村誠（立命館大学政策科学部教授）

[第 2 報告] 司会：鄭雅英（立命館大学）

報告者：チョ・チャンヒョン（立命館大学大学院国際関係研究科博士後期課程）

「北朝鮮の核保有の論理に関する考察—北朝鮮の官僚・研究者へのインタビュー調査を中心に」

コメンテーター：川口智彦（日本大学）

1. 投稿資格

国際高麗学会日本支部は、学会誌『コリアン・スタディーズ』を年1回発行する。掲載される原稿は、朝鮮半島および朝鮮民族に関するあらゆる分野の学術的な論文、研究ノート、書評論文、キルチャビ、書評である。論文、研究ノートについては、国際高麗学会日本支部会員は自由に投稿できる。投稿については、寄稿規定並びに執筆規定を熟読すること。ただし、当該年度までの会費納入を要する。投稿論文は常時受け付ける。また、編集委員会で企画する特集については、非会員にも寄稿を依頼することがある。

2. 投稿条件

投稿される原稿は、未発表の書き下ろし作品のみとする。同一原稿を『コリアン・スタディーズ』以外に同時に投稿することはできない。

3. 審査

寄稿された原稿を掲載するか否かは、別途定める査読規定に基づいて編集委員会で審査の上決定する。

4. 使用言語

本文は日本語のみとし、注および参考文献に限り外国語を使用できる。要旨およびキーワードは日本語および英語とする。

5. 枚数

原稿枚数は400字詰め原稿用紙換算で50枚以内とし、本文(タイトル、氏名含む)、注、参考文献、図表を含めたものとする。論文には、日本語要旨、英語要旨およびキーワード(日本語および英語)を付けることとする。ただし、いずれも枚数には含まない。枚数を超過した場合、審査対象としないこともあるので、下記を確認すること。

論文 50枚以内+日本語要旨(400～800字)、英語要旨(800～1000語)+キーワード(日本語および英語)

研究ノート 50枚以内

キルチャビ 20枚以内

書評 5～15枚

6. 投稿形式

投稿は原則として電子文書とし、マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式で作成したものを投稿規定10にある提出先のe-mailアドレスに送付すること。図表や写真は可能な限り本文中に挿入すること。マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式以外での提出については、投稿規定10にある問い合わせ先に連絡すること。必要に応じて印刷された原稿の郵送を求めることがある。

7. 抜き刷り

本誌は国際高麗学会日本支部会員には1部ずつ、論文、研究ノート各1本につき1部配布する。抜き刷りをご希望の場合は別途有料となるので、投稿の際に申し添えること。問い合わせについては10を参照のこと。

8. 校正

校正は原則として著者校正のみで、内容のみならず、投稿規定および執筆規定に則った形式に訂正することも校正作業に含まれる。審査により採用決定となった後に行われる初校段階での誤植以外の修正は原則として認めない。なお、再校は初校段階の訂正を確認するだけの作業となる。

9. 原稿の保管

投稿原稿の保管や取り扱いについては編集委員会が責任を負う。

10. 提出先および問い合わせ

投稿原稿は下記宛に提出すること。

国際高麗学会 日本支部事務局

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目5-5 マーキス梅田 506号

tel 06-6314-3775 fax 06-7660-7980

isksj@ams.odn.ne.jp http://www.isks.org/

投稿などに関する問い合わせは、上記住所の支部事務局をお願いします。

11. 著作権

投稿された原稿の著作権は国際高麗学会日本支部に所属するが、原著者が『コリアン・スタディーズ』に掲載された当該論文を自著作の単行本や論文集に再掲載することは妨げない。

(2014年6月30日)

国際高麗学会日本支部学会誌『コリアン・スタディーズ』執筆規定

2014年6月30日一部改訂

1. 本文

(1) 基本用語

- a. 原稿は日本語、横書きとする。図表や図版は原稿本文に組み込み、紙幅の制限内に含める。
- b. 朝鮮、中国に関わる人名・地名は漢字（日本の現代漢字も可）で表記し、漢字不明の場合はカタカナ表記とする。欧米由来の度量衡はカタカナ表記とする。

(2) 数字

- a. 数字はアラビア表記を原則とし、場合に応じて漢数詞を用いる。
- b. 年号は西暦を用い、国家・地域固有の年号を使用する際は西暦を（ ）で付記する。

(3) 見出し

- a. 章はアラビア数字で1, 2, 3…と表す。「はじめに」と「おわりに」（あるいはそれ等に該当する見出し）にも数字を振る。「はじめに」は1とする。
- b. 章以下の節は(1)、(2)、(3)の順で表す。
- c. 節以下の項はa, b, cの順で表す。

(例) 第1章⇒1、第1節⇒(1)、第1項⇒a

2. キーワード

論文、研究ノートには日英5語以内でキーワードを付けること。キーワード間は読点ではなくコンマを入れること。

3. 文献引用

(1) 本文や注、図表で文献を表記する際は、編著者の姓（刊行年：ページ）のみ表記し、文献の詳細は参照文献リストに表示する。朝鮮人の名は姓名とも表記する。編著者名が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。

(例) 文献全体を示す場合

鈴木 [2005], 朴統一 [2011] によれば・・・

文献の一部を示す場合

…投票率は低かったとされる [キムハヌル 2012: 11-13]。

(2) 2度目以降の引用でも前掲書・前掲論文、同上書・同上論文などの用語は使用せず、上記(1)のように

表記する。

(3) 新聞・雑誌記事や社説の場合は本文・注・図表に新聞・雑誌名、発行年月日を記した上で、参考文献リストに新聞・雑誌名を入れる。

(例)

…保守言論による歪曲は深刻である [『月刊朝中東』2001年1月]。

…と指導者は発言している [『労働新聞』2012年4月16日]。

4. 注

(1) 注は、本文の内容について文脈上の解説や言及をする必要がある場合に用いる。

(2) すべて文末注とし、方カッコ付アラビア数字で表示する。

(例) 1)、2)、3)・・・

5. 図表

図表のタイトルは、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に付ける。

6. 参考文献

(1) 本文、注記、図表で用いたすべての文献を「参考文献」として本文の最後に一括して表示する。参考文献とは、本文中または注において引用した文献を指す。

(2) 文献リストは言語ごとに分け、日本語文献は著者名の50音順、韓国・朝鮮語文献は著者名のカナダラ順などに並べる。

(3) 参考文献については、著者名・(刊行年)・書名・号数(発行年月日を入れてもよい)・発行所・頁等を示す。筆者名のある新聞・雑誌記事は雑誌論文と同様に表記し、発行年月日も記入する。

(4) 英文文献の場合、書名はイタリックで表記する。論文名は単行本所収か雑誌所収かに関わらず一律クォーテーション・マークで括る。

(例)

単行本の場合

・朴一 (2005) 『朝鮮半島を見る眼－「親日と反日」「親米と反米」の構図』藤原書店、pp.123－125

・이광우 (2004) 『신경과학』 범문사, pp.153.

・Kim, L. (1997). *Imitation to Innovation: The Dynamics of Korea's Technological Learning*. Boston: Harvard Business School Press.

論文の場合

・文京洙 (2005) 「戦後60年と在日朝鮮人“国民”の呪縛を超えて」『思想』No.980、岩波書店、pp.8－9

・김신일 (1991) 「교육자치의 당위성과 현실」『교육학연구』Vol21, 교육출판, pp. 11－18.

・Min, Pyong Gap. (2001). “Koreans in New York: An ‘Institutionally Complete’ Community.” *New Immigrants in New York*, edited by Nancy Foner, New York: Columbia University Press, pp.173-200.

・Koh, Y.S. (2008). “Financial and Corporate Reform in Korea: Survival Strategies of the Korean “Chaebols””, *Asian Studies*, 54 (2), pp.71-88.

編集後記

今号より、前任の総谷智雄先生より大役を引き継ぎました。「編集委員長」という「カッコイイ」肩書きとは裏腹な、きわめて地味な作業の連続に歴代編集委員長の多大な労苦をあらためて知ることができました。編集で、「後世に貴重な研究成果を引き継いでいく仕事」との言葉をいただきましたが、そのような大役を担っていること、そして、メールの打ち間違いや失礼がないかと幾度も緊張しつつ、多くのご協力をいただき、無事発行へと至ることができました。ご執筆、ご協力いただいたみなさまに、この場をお借りしてあらためてお礼を申し上げます。

今号は、3.1 独立運動 100 周年にあたり実施した学術大会でのシンポジウムを特集に組み、投稿論文、研究ノート、キルチャビ、書評と充実した内容となりました。特にシンポジウムの報告は、3.1 独立運動を当学会ならではの視点から再照射したもので、私も勉強させていただきました。貴重な寄稿をぜひご一読ください。

次号 9 号の投稿締め切りは 9 月末日を予定しています。多くの投稿をお待ちしております。 (鄭栄鎮)

『コリアン・スタディーズ』編集委員

文京洙

高正子

朴一

高龍秀

鄭雅英

蔡徳七

裴光雄

伊地知紀子

森類臣

全ウニ

洪ジョンウン

鄭栄鎮 (編集委員長)

コリアン・スタディーズ

第8号

Korean Studies No.8

頒価 1,000 円

2020年6月1日 発行

編集・発行団体 国際高麗学会日本支部

〒530-0047

大阪市北区西天満4丁目5-5

マーキス梅田506号

TEL 06-6314-3775

FAX 06-7660-7980

E-mail isksj@isks.org

発行者 国際高麗学会日本支部会長 鄭雅英

編集代表者 鄭榮鎮

装丁 金文男

制作 株式会社 田中プリント

Korean Studies
Vol.8 2020

Feature Articles: Pluralistic Possibility of March 1st Independence Movement

Foreword TONOMURA Masaru

About the Studies on the history of the 3.1 Independence Movement
in the Democratic People's Republic of Korea KANG Seong Eun

Confrontation between Japanese Colonial Organizations and Korean People
during March 1st Independence Movement Period MIZUNO Naoki

After the liberation(1946-1948), March First Anniversary Movement of Koreans
Residents in Japan -A comparison with August 15 Liberation Anniversary BAE YOUNGMI

Rethinking Ethnic Relations between Koreans and Hans
in March 13th Independent Movement in Longjing IIKURA Erii

Articles

Historical Change of Democratic People's Republic of Korea Industrial Art (1948-2019)
—Industrial arts: light industrial and heavy industry productform design'
development history— Ryu hyun-guk

Notes on Research

A Dream of "History Museum of Zainichi Korean"
—Historical Practice of Zainichi Korean Researchers in Japan
and "Seikyu-Bunka Hall"— Yamaguchi Yuka

Japan-Korea Conflict on Korean forced labors who were recruited
during World War II PARK II

Kilchabi (Compass)

The Reflections on The 14th ISKS International Conference of Korean Studies SEO JEONG GUN

On Korean Music at Japanese colony period IM Jonghyok

Book Reviews

Political Economy of the 20th Century East Asia by PARK II Lyu Hak Su

South Korean Government's Policy on the Korean Japanese:
Between Inclusion and Exclusion by MIN Jihoon Kim, Woongki

Media democratization movement and Journalism in Republic of Korea :
Historical Sociology concerning "The Hankyoreh" by MORI Tomoomi Hyun Mooam

Tourism in North Korea by ISOZAKI Atsuhito MORI Tomoomi

Published by the Japan Branch of International Society for Korean Studies
4-5-5-506, Nishitenma, Kita-ku, Osaka, Japan